

## 第3回策定委員会における意見と対応案

必要な機能		委員からの意見	対応案
創	①起業家教育	○特に地方においては、起業の失敗が許容されにくい雰囲気があると感じるので、長期的になると思うが、そうした社会環境の改善にも期待する。(山本委員)	○アントレプレナーシップ教育を通じて、起業家支援の機運醸成を図る。 ○スタートアップ支援の周知・広報にも注力する。
		○起業部の運営に関心の高い団体もあるので、うまく連携して行ってほしい。(水口委員)	○スタートアップ支援拠点のほか、県内の学生支援団体、教育委員会、高校等と連携して取り組む。
		○生徒たちのことを考慮すれば、起業部の運営は継続性が重要。(水口委員)	○関係機関との連携のほか、将来的には起業部の卒業生に運営に関与してもらうなど、継続するための仕組みを検討していくとともに、卒業生等が関わりを保っていくための機運醸成を図る。 【この点を戦略に明記】
出	②新ビジネス創出支援	○リアルを充実させるところに力を使うべき。例えばSHIPから専門家を派遣して西部地域や東部地域で相談業務を行うなど、県内の支援拠点等と連携してリアルの部分を活用できるようにしてほしい。(橋本委員)	○実証フィールドの提供、県内スタートアップ支援拠点間のネットワーク形成による支援体制の拡充により、リアルを充実化させていく。
		○ビジネスプランコンテストやピッチイベントは、市町や支援機関が実施しているものとの差別化が図れるのか懸念。スタートアップを振り回すだけにならないように。ピッチイベントは売上に直結する内容となるよう留意してほしい。(山本委員)	○行政課題に関連したテーマを設定して、公共調達や補助制度等の支援策との連結を図る。 ○ビジネスプランコンテストは県の先端産業プロジェクトとの接続を図り、その後の伴走支援に注力して、スタートアップの大きな成長につなげていく。
		○具体的な産業のテーマをある程度絞り込んで支援をしたらどうか。ものづくりで勝っていけるような戦略になるとよい。(赤浦委員)	○まずは、静岡県の先端産業とスタートアップとの融合を進め、産業の絞り込みについてはその状況を踏まえて検討していく。

必要な機能		委員からの意見	対応案
育成	③ノウハウ提供	○大手企業がスタートアップに逆ピッチする機会があるとよい。(山本委員)	○TECH BEAT Shizuoka 等で県内企業のスタートアップへの逆ピッチを実施する。【この点を戦略に明記】 ○施策 11「県内自治体や企業向けのピッチイベントの開催」では、各市町や企業から解決してほしい課題を募集し、その課題解決につながるアイデアをスタートアップから提案してもらい、マッチングにつなげていく。
	④ファイナンス	—	—
連携	⑤ネットワークハブ	—	—
	⑥コミュニティ形成	○県として広域的、市町を補完する施策をやってもらいたい。(川路委員)	○アントレプレナーシップ教育を含め、県全域に戦略の取組を展開することを念頭に、県が広域的・補完的な機能を果たしていく。
その他		○K P I を明確に定めた方がよい。(川路委員)	※別紙参照
		○具体的な数値目標があった方がよい。不退転の覚悟でやってほしい。(赤浦委員)	
		○戦略を策定した後のフォローする仕組みが必要。(川路委員)	○来年度以降も、本策定委員会の委員に進捗状況を報告し、評価をお願いしたい。